



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」という気持ちを持っていただければと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、交流しながら「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

2004年4月。9名のメンバーで発足。

2004年9月の神通研集会・第1分科会「サークル」を担当。

その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

2005年6月現在、川崎4名、横浜3名、県域10名、神聴連1名、計18名で活動中。

～ 定例会 ～

地域のサークルの様子や情報等の交換、神通研集会の準備を行っています。

9/23 定例会報告

神通研集会の反省を行いました。集会で問題提起された内容に関して、今後、神聴連と意見交換を重ね、方向性を見いだしていきたいと思えます。災害時に関しては、出来ることから早急に取り組んでいく必要性を感じています。サークル内で避難所等の話題をきっかけに、雑談の中で問題点と解決策が出てくることもあります。機会を作ってみてはいかがでしょうか。

【次回定例会】

10月23(日) 13:00～15:00

横浜駅西口・かながわ県民センター12階
ボランティアコーナー

(いつでも、どなたでもお気軽にご参加下さい)

～ '05年神通研集会 第1分科会報告～

「サークルと地域の関わり」

「サークル」以外での活動

・市(区)民まつり、福祉まつり、ボランティア団体との行事等への参加

小・中学校総合学習への「サークル」の関わり方

・手話と共に聴覚障害者理解も伝えていく

災害時の「サークル」会員の役割

・通訳派遣が機能するまでは、地域の友人として情報提供を行う

・地域と繋がる取り組みをろう者と共に行う

～サークル研究班メンバーのささやき～

つい半月前まで、残暑厳しい～と悲鳴をあげていたのに気がつけば、何を食べてもおいしい秋、10月。

春から災害対策、自立支援法、ろう老人ホーム、といろいろありました。どれもすぐには答えの出ない取り組みでゴールは遠い・・・どこかの野球チームは、たった1年の結果で、監督を解任するとか。今年の次には来年があるのにねえ。

誰かがこんなこと言ってくれました。

「失敗はすべて経験、恥じることなく大いに経験を積んで、それを自分の財産に。」 S.J